



お客さま向け資料

ブラジルのSelic(政策金利)据え置きについて

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

2010年12月7日・8日(現地)の2日間、ブラジル中央銀行定例金融政策決定会合(COPOM)が開催され、ブラジル中央銀行はSelic(政策金利)を、現行の年率10.75%に据え置くことを全会一致で決定しました。

順調に進む景気回復や、対米ドルでのレアル高により輸入が増加していることなどを背景としたインフレ圧力の高まりから、ブラジル中央銀行は2010年4月以降7月まで、合計3回にわたって政策金利を合計2.00%引き上げてきましたが、その後は政策金利を据え置いてきました。

ブラジルでは、11月消費者信頼感指数が125.4と史上最高を記録したほか、ブラジル中央銀行が公表する市場予想でも、2010年のGDP成長率が7.54%と(出所:ブラジル中央銀行、2010年12月3日現在)、ブラジル経済が引き続き拡大基調にあることが窺われます。

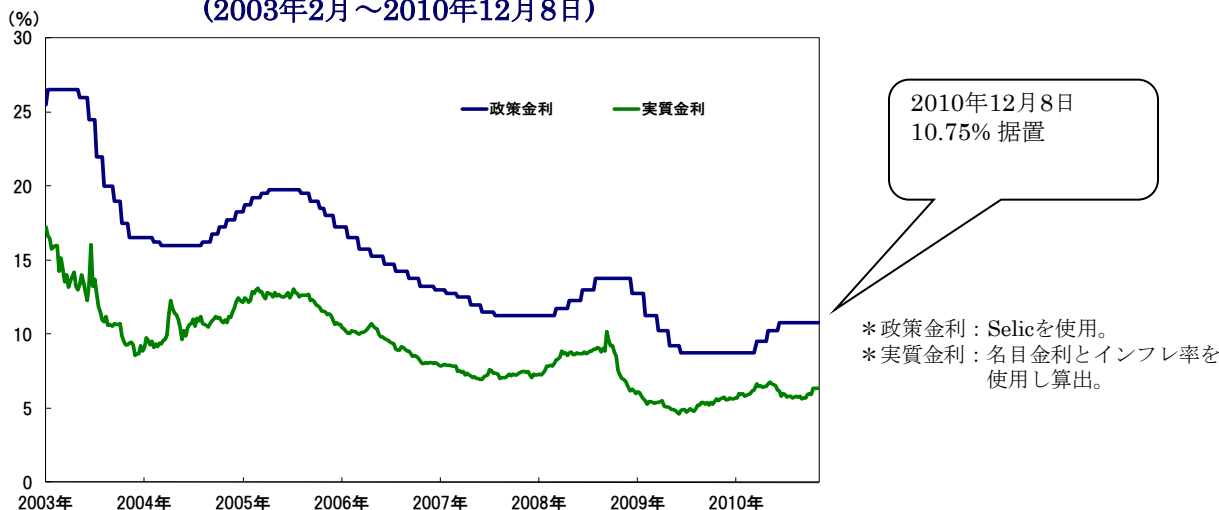
一方でブラジル中央銀行は、インフレ加速の主因とみられる信用拡大の抑制に向け、預金準備率を引き上げ、要求払い預金は現行の8%から12%に、定期性預金は15%から20%とし、12月13日から実施すると発表しました。こうした政策が採られるなか、9月の鉱工業生産が前月比マイナス0.16%と足元では景気減速感も出ており、今回の金融政策決定会合においても政策金利の据え置きが決定されたと考えられます。

ただ、ブラジル中央銀行がインフレ目標に使用している拡大消費者物価指数(IPCA)は、10月が前年同月比+5.20%、11月は同+5.63%とインフレ圧力が再び高まっていることから、ブラジル中央銀行は早晚、政策金利を引き上げると見られ、預金準備率の引き上げ効果を慎重に見極めつつ、利上げ開始の時期を探るものと考えられます。

今回の政策金利据え置きの発表は株式市場の引け後に行われましたが、利上げに対する警戒感からボエスバ指数は前日比1.7%安の68,174.92で引け、為替市場では、対ドルは1米ドル=1.69レアル、対円では1レアル=49.77円で推移しています(出所:ロイター)。

なお、ブラジル株式の運用につきましては、引き続き海外要因の影響を受けることも想定されることから、当面は慎重な運用を行ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2003年2月～2010年12月8日)



本資料は、BNPパリバ アセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2010年12月9日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できると思われる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。